

タイトル『蟹工船』

著者：小林 九喜二 (瘦刀文幸) 出版社：理論社

～あらすじ～

蟹工船では非道적인労働者の酷使が平然と蔓延していた。
労働監督の浅川は働かぬものに容赦なく人柄を振り下ろして。
浅川の暴力和虐待による支配は日一日奇烈さを増している。
ある時嵐の中漁に出され口三ア人に救出されており。ここで
で教え込まれていた人権意識がストライキを執行せよが失敗
に終わる。度目覚めに人権精神が死ぬことは「もう一度！」
とストライキに立ち上がるのだった。

～おすけの感想～

この作品は実際に発生した「博愛丸事件」をモデルに描かれており
当時の大正の闇を生動に描かれており大正という時代を深
知ることが出来る。

主人公が存在せず主人公どころか特徴的な女子人物さえ
登場せず「労働者」という大きな塊として描かれていて
物語全体が「資本家 vs 労働者」という構図にたっている。

投稿日 年 月 日

ペンネーム (本名は書かないでね!)

hii

年齢

14才

仙台市

図書館 YAコーナー